

# 平垣町の

# 札の辻橋

平成十二年十一月五日号

富士本町通りから旧東海道を西へ四百メートルほど向かうと、長さ五メートル、幅六メートルほどの「札の辻橋」に差しかかります。今回はこの札の辻橋について紹介します。

岩本山を背にした実相寺は、今から八百年ほど前の久安年間きゆうあんに、鳥羽法王とばの仰せにより建てられたと言われています。当時は

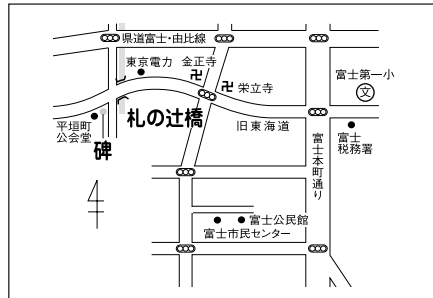
「西に比叡山ひいがい、東の実相寺」とまでうたわれた、全国でも名高いお寺でした。寺には、四十九院、五百の僧坊があり、何百人もの修行

僧が勉強し、ここで生活を送っていました。

昔の実相寺の敷地はとても広く、一方一里（約四キロ）あり、その寺領は南は現在の札の辻橋付近まで及んでいます。このあ

たりに実相寺の山門のようなものがあり、お寺に参拝に来た人々がこの付近でお札を買ったことから「札の辻」という名がつけられたようです。

一般的に、「札の辻」とは、制令（禁令の簡条を記した立札）を立てておいた辻のことを言い、現在でも地名として残っているところがあります。





▲ 札の辻橋



▶ 札の辻跡の碑

### 平垣町にお住まいの 海野嘉一さん

札の辻橋は、大正五年三月に竣工されました。橋にはもともと鉄製の立派な欄干がありました。橋にはもともと鉄製の立派な欄干がありましたが、戦争中に、鉄の部分は資源として国に寄附してしまいました。

来年は、東海道宿駅制度が制定されてから四百年目になりますが、旧東海道の通っている平垣町も、昔から道路はきれいに整備されていました。橋の周辺も、交通量がふえたくらいで、今と昔とではあまり変わっていませんね。

札の辻のいわれも、語り継ぐだけではいつかは忘れられてしまいます。何か形として残るものをつくりたいと思い、昭和五十年、平垣町の有志一同で、橋のそばに札の辻のいわれを示した「札の辻跡」という石碑を立てました。子どもたちにもこの由緒ある「札の辻」のことを伝えていきたいですね。